

令和6年度 自己評価・こども園関係者評価報告書

令和7年4月1日

幼保連携型認定こども園

立正保育園

1. 本園の教育保育目標

保育理念

・子どもの個々を大切に、生きる力 あふれる豊かな心と体を育てる ～生き生きとした子どもをめざして～

保育目標

・明るく・正しく・すこやかに

○健康な身体とどんなこんなにも耐えることの出来る太い幹をもったこども

○様々なあそびと想像。そして、友だちとの輪の広がりをたいせつにできるこども

★私たちは、子ども育ちを支えます。

★私たちは、保護者の子育てを支えます。

★私たちは、子どもと子育てに優しい社会を作ります。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

・乳幼児期全体を、その特性及び保護者や地域の実態を踏まえて、環境を通して行うものであることを基本とし、家庭や地域での生活を含めた園児の生活全体が豊かなものとなるように努める(幼保連携型認定こども園教育・保育要領より)

3. 評価項目の達成及び取り組み状況(個人評価集計)

	評価項目	評価	
1	園児1人1人が安心感と信頼感を持って色々な活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにする。	A B C	84% 16% 0%
2	生命の保持が図り安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を通して子ども達の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活を展開する。	A B C	46% 46% 8%
3	教育及び保育において育みたい資質・能力を園児の生活する姿から捉える 各視点や領域に示すねらいは、幼保連携型認定こども園における生活の全体を通じ、園児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連を持ちながら次第に達成する。 内容は、園児が環境に関わって展開する具体的な活動を通して総合的に指導する。 ・乳児は三つの視点 ・幼児は五つの領域 ・幼児期の終わりまでに育って欲しい姿	A B C	31% 61% 8%
4	園児1人1人の特性や発達の過程に応じ、発達の課題に応じて、発達の課題に即した指導を行う	A B C	54% 38% 8%

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…今後の課題にする)

三つの視点

- ① 身体的発達に関する視点 『健やかにのびのびと育つ』
- ② 社会的発達に関する視点 『身近な人と気持ちを通じ合う』
- ③ 精神的発達に関する視点 『身近なものに関わり感性が育つ』

五つの領域

- ① 心身の健康に関する領域『健康』
- ② 人との関わりに関する領域『人間関係』
- ③ 身近な環境との関わりに関する領域『環境』
- ④ 言葉の獲得に関する領域『言葉』
- ⑤ 感性と表現に関する領域『表現』

幼児期の終わりまでに育って欲しい姿

- ① 健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え
- ⑥ 自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形 標識や文字などへの関心・感覚 ⑦言葉による伝え合い
- ⑩ 豊かな感性と表現

4. 総合的な評価結果(個人評価集計)

評価	
A	39%
B	61%
C	0%

5. 今後取り組む課題

(職員で話し合いまとめたことを今後の課題とする)

	課題	具体的な取り組み方法
1	職員の連携 コミュニケーション・協働	・全職員で情報を共有する。(紙面に表記し全職員で確認) ・乳児組、金曜日に振り返り
2	業務	・見通しを持って計画し、一人で抱えこまないように仕事を進める
3	子どもとの関わり	・その子にあった関わりを持って接する。
4	主体的な活動を促す 子どものありのままの姿を 受け入れる	・年齢に応じた環境作り ・子どもの興味にあった玩具を選ぶ。玩具の置き方 ・コーナー遊び(選択肢)
5	安全環境(アレルギー)	・ヒヤリハット検証し事故を未然に防ぐ(ケガがおこりやすい時間帯、場所を把握) ・園庭の職員の立ち位置 ・園庭の使い方のルールの共有 ・アレルギー食のダブルチェック

